

陽だまり No.68

第71回 日本PTA全国研究大会

第53回日本PTA中国ブロック研究大会が広島県で開催されます！

メインテーマ「変化の時代に向け、PTA自身が学びの変革を！」

～見つけ 考え かわろうや ぶち楽しいで！！～ 広島から全国へ

令和5(2023)年 8月25日(金)：分科会 県内8か所

8月26日(土)：全体会

広島県立総合体育館(広島グリーンアリーナ)



NEWS

10月26日に全体会の会場となる広島県総合体育館(グリーンアリーナ)の会場視察を日本PTA全国協議会役員、広島県PTA連合会役員と事務局にて行いました。会場内の設備、来場者の受付までの導線などを確認し、その後意見交換会を行いました。



「楽しい子育て全国キャンペーン」
～家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ～三行詩
令和4年度「広島県PTA連合会賞」受賞一覧

学校名	学年	名前	作品
庄原市立東小学校	3年	岩崎 薫	ぼくの顔はお父さんに お姉ちゃんの顔はお母さんに ぼくの性格はお母さんに お姉ちゃんの性格はお父さんに 結ぶよ家ぞくみんなそっくりだ
福山市立川口小学校	5年	西村 結来	「ねえ ねえ 今日、学校でねえ」 自然とはしが止まる 笑って話せる今夜が大好き
福山市立鞆の浦学園	5年	羽田 望花	命とは、生きる長さではなく 限られた時間で どれだけ、一生懸命生れるか
福山市立鞆の浦学園	1年	住吉 美波	えがおで ぎゅっと だきしめて あさの につか いってらっしゃい
福山市立鞆の浦学園	2年	前田 湊斗	よるねるとき、ねむたいのに ふとんの中でおとうさん・おかあさんと はなしするのが ぼくの1ばんのたのしみ。



学校名	学年	名前	作品
庄原市立西城中学校	1年	石川 将基	「今日は、何があったの？」と聞いてくれる母 けれど、適当に言葉を返す自分 本当は、聞いてくれてうれしいよ
庄原市立西城中学校	3年	藤井 里歩	毎朝送ってくれる父 「置いていって」と言いながら 玄関で顔をのぞかせ待っている父
庄原市立西城中学校	3年	牧原 ひなた	勉強中 一息つこうとリビングへ ふせんにイラストと「頑張れ」の三文字 不器用なお母さんの あたたかい気遣い
庄原市立西城中学校	3年	福本 心春	「ありがとう」「ごめんなさい」 心の中では言えるのに 言葉にならない 素直じゃない口
庄原市立西城中学校	2年	重原 朔	この春から少し遠い所へ進学した姉 「さみしいじゃろ?」「さみしくない」強がる私 心の中はとっても弱い 本当はさみしい毎日会いたい 大好きなお姉ちゃん



学校名	名前	作品
東広島市立豊栄小学校	花岡 澄子	旅立ちの朝 「いってきます」 遠くなる娘の背中 我が涙 止まらず
呉市立天応中学校	佐藤 誠	まだ出ぬ芽に わが子に思いを馳せ 水をやる
東広島市立豊栄小学校	日下部 嘉常	帰宅時「ただいま」その声に 「おかえり」こだまが現れた 一人暮らしじゃ得られぬ幸せと安らぎ
東広島市立豊栄小学校	荒谷 容子	そっと応援 ずっと応援 わが子の夢
三次市立吉舎中学校	音野 由美	なん歳になっても わが子のねがおは 愛しい

三行詩にご応募いただきありがとうございました。広島県PTA連合会内での選考により各部門の優秀賞を決定しました。受賞作品は日本PTA全国協議会へ推薦しています。



充実の補償で お子様を サポートします

●誤って他人のものを
壊したり、他人にケガを
させてしまったら…
(加害事故の補償)

インターンシップ(職場体験)
等に起因する法律上の賠償責任
も対象になります。

●授業中やクラブ活動など、
校外外を問わず発生
する急激かつ偶然な外来
の事故によるケガや病気*
の補償

*病気入院補償は
Hプラン・Wプラン
のみ対象です。



団体割引適用で 割安な保険料!

団体割引30%
損害率による割引35%適用
メディカルアシストでお子様の
健康相談を24時間受付

●学校管理下中の学用品・
身の回り品などの補償
●育英費用 等

充実の補償でお子様をサポートします。

広島県PTA連合会 小・中学生総合保障制度



小・中学生総合保障制度は団体総合生活保険のベトナムです。この広告は「広島県PTA連合会小・中学生総合保障制度」の概要について紹介したものです。保険の内容はパンフレットをご覧ください。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読み下さい。詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡ししてあります保険約款によりますが、ご不明な点がございましたら取扱代理店・引受保険会社までお問合せください。この保険契約は、以下の保険会社による共同保険契約であり、東京海上日動火災保険株式会社が他の引受保険会社の代理・代行を行います。各引受保険会社は、契約締結時に決定する引受割合に応じて、連帯することなく単独個別に保険契約上の責任を負います。なお、引受割合につきましては、団体窓口にご確認ください。令和3年12月作成 募集文書No21-TC07074

引受幹事保険会社
東京海上日動火災保険株式会社
お問合せ先・取扱代理店：(株)東京海上日動パートナーズ中国四国 TEL: 0120-018-217
保険会社：東京海上日動火災保険株式会社 広島支店 広島中央支社 TEL: 082-511-9194

共同引受保険会社
あいおいニッセイ同和損保
パンフレット・重要事項説明書は左記「お問合せ先」にご請求下さい。
MSK AIOI INSURANCE GROUP

第70回 日本PTA全国研究大会 山形大会 ～人と人のつながりを体験しよう！～
 令和4年8月26日(金)・27日(土)開催

8月26日(金)・27日(土)の2日間『第70回日本PTA全国研究大会』が山形にて行われました。「人と人のつながりを体験しよう！」のスローガンのもと、まさに3年ぶりのリアル開催を体感できることに会場も熱気に包まれていました。

1日目の分科会は10の研究課題として①「迷わない子育てはない！子育ての悩みを共有できるPTA活動」②「地域とつながる学校教育」③「郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる人材を育てるPTA活動とは」④「子供たちの人権尊重と、人権感覚の涵養」⑤「広報活動による家庭・学校・地域のつながりを求めて」⑥「デジタル社会におけるICTの有効な活用の仕方」⑦「子供のために自ら学び・動くPTA」⑧「悩みに気づき、相談される関係性をつくる」⑨「[令和の日本型学校教育]を支援するPTA活動」⑩「メディア・リテラシー育成における学校教育と家庭教育の役割」を掲げ、講演者にオリンピックの葛西紀明さんらを迎え多岐にわたる分野で研究会が行われました。

2日目、山伏の法螺貝の神聖な音色から始まった全体会は指揮者の飯森範親さんを迎え「『一本のタクト』は、人のこころを豊かに幸せにするアイテムライブでしか味わえない演奏をあなたに…」と題した講演と山形交響楽団の記念演奏会が開催されました。講演では飯森さんが出羽三山や最上川を有する山形と出会い大好きになったこと、山形交響楽団と出会いその個性の素晴らしさを知ったことなどのエピソードから、それらの魅力を最大限に引き出そうとする指揮者の技というのは演奏だけにあるのではないことを知りました。飯森さんが演奏者とのコミュニケーションはもちろんのこと、交響楽団や山形の素晴らしさをアピールするために様々な活動をされていることには、そこまでするのかと驚きました。(そこまでするのは多面的な考えを持つお母様、努力家であるお父様の影響を受けた飯森さんオリジナルかもしれませんが…) その様な緻密な活動を基に舞台上立ち、振り出されるタクトは1つ1つの音を大切に音の星座を描くような美しさがありました。最後は会場の私たちに向けてもタクトを振られ、手拍子でつながる演奏会はみんな笑顔のスタンディングオベーションで幕を閉じました。はじめは指揮者？オーケストラ？何がPTA活動と関わりがあるのだろうか？と思っていたのですが、大好きな子どもたち、保護者の個性を1つ1つ大切に丁寧につないで、みんなに笑顔になってもらうことはPTA活動の理想の姿なのかもしれないと感じました。



山形を愛する指揮者の飯森範親さんと山形交響楽団のみなさん

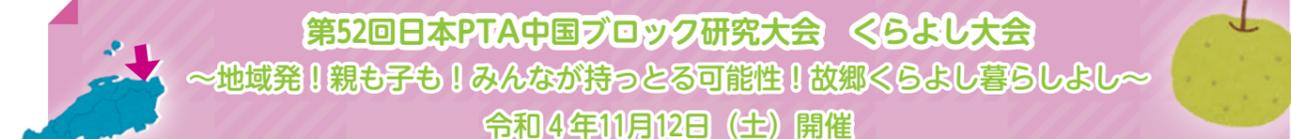
また来年度の広島大会に向けて、大会旗が山形県から広島県へ引き継がれました。広島県PTA連合会も「変化の時代に向け、PTA自身が学びの変革を！」をメインテーマに開催する広島大会のPRを行いました。

「来年は広島の地でお会いしましょう！」



「待っどるよ〜!!」

第52回日本PTA中国ブロック研究大会 くらよし大会
 ～地域発！親も子も！みんなが持つとる可能性！故郷くらよし暮らしよし～
 令和4年11月12日(土)開催



11月12日土曜日、鳥取県倉吉市で第52回日本PTA中国ブロック研究大会くらよし大会が開催されました。新型コロナウイルス感染症対策として現地とオンラインの両方の開催となりました。

実践発表は三つ行われ、そのうちの一つ「とっとり子どもサミット～メディアとの理想的な付き合い方を考えよう～」は、平成29年度から児童・生徒が主体となって考えた「電子メディア機器との付き合い方」の取り組みで、今年度で6年目となるそうです。SNSの利用に伴う危険性について小さな子どもにも分かりやすく伝えられるよう語呂合わせの標語、「とりのからあげ」についての説明、参加した児童・生徒のインターネットやSNSの利用ルールの見直すことの大切さを学んだという実践発表でした。

「子どもの可能性を伸ばす保護者の向き合い方」～ティーチングからコーチングへ～と題し、講師にスポーツライミング日本代表ヘッドコーチである安井博志氏をお迎えし、記念講演がありました。コーチングとは、「その人を目的地へ導くこと」を意味するそうです。子どもたちの可能性は無限で、私たち大人を容易に超える可能性を秘めている、その可能性に気づき広げていくためにコーチングがよりよい方法と考えられています。子どもたちが困難な場面や失敗したときにこそコーチングは必要です。気づいたことがあれば私たち大人が伝えることも重要ですが、全てを伝える必要はないそうです。また、感謝の気持ちをもつことが、物事を良い方向へ進めるきっかけにもなるそうです。

私たち大人が子どもとどう向き合い対応していくか、重要なことだと思いました。今回は、来年度開催予定地である広島県のPRもさせていただきました。全国大会も兼ねた研究大会の成功を祈りながら…会員のみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

「ひろしま給食」が、歴史になる？ 食育コラム ～広島県教育委員会 豊かな心と身体育成課～

今年6月のある日、自称「ひろしま給食ファン」の知人から、「『ひろしまトンチキレモン』を見つけた！」という連絡がありました。聞いてみると、近くのコンビニエンスストアのお弁当コーナーに並べられていたそうです。次の日の朝、そのお店に行ってみると、「のっけ弁当 トンチキレモン」として販売されていました。もちろん、ひとつ買って、お昼に食べました。



ひろしまトンチキレモン

この「ひろしまトンチキレモン」は、今から9年前、「ひろしま給食100万食プロジェクト」が始まった平成25年度の「ひろしま給食」統一メニューです。コンビニエンスストアの担当者にお問い合わせしてみたところ、「地域に根差した給食メニュー」という商品開発コンセプトのもと、「ひろしまトンチキレモン」が、現在も学校給食のメニューとして提供されていることを確認した上で商品化し、広島・山口両県での販売に至ったそうです。

9年前、当時の小学校6年生は今年21歳、中学校3年生は24歳、大学生や社会人として活躍しながら、時々コンビニ弁当を購入することもあるでしょう。この商品を手に取り、当時の給食や教室、友達のことを思い出しながら味わった若者もいたかもしれません。

さて、「陽だまりNo.67」でお知らせしました「ひろしま給食」100万食メニューについて、広島県産のアスパラガス、トマト、マダコ、わけぎ、米の5品目を指定食材として募集を行いました。今年度も多数の応募があり、県民投票によって、「ひろしま給食」100万食統一メニューは、「S・さっぱり D・どうぞ G・がっつりと SDGsビーフン」に決定しました。このメニューは、他の「ひろしま給食」100万食メニューとともに、令和5年1月24日～30日の全国学校給食週間を中心に、県内の学校給食等で提供されます。今後、これらのメニューが、長年にわたって学校給食の人気メニューとして提供され続けることを願います。「ひろしまトンチキレモン」のように。



■広島県教育委員会「ひろしま給食推進プロジェクト」ホームページ
 (https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/juten-kyusyokusuisin.html)

